

細胞診検査の依頼方法

※専用依頼書を必ずご提出ください。

細胞診依頼書 必要事項の記入要領

- ※ 必ず黒色ボールペンでご記入ください。（青色・赤色等は使用しないでください）
- ※ 細胞診検査を正確かつ迅速に行うため、記載漏れがないようお願い致します。
また、依頼書に記載された内容についてお問い合わせをさせていただく場合がございます。
この際には、通常より報告日数が遅延致しますので、予めご了承ください。
- ※ その他の検査項目依頼の記載はしないでください。（その他の検査項目の記載がされても検査の依頼受付が出来ません）
 - ①病・医院名および担当医名をご記入ください。
 - ②採取日・採取時間・採取部位（1部位のみ）をご記入ください。
 - ③ご提出される標本枚数（他検査項目標本は記入しないでください）・専用容器数をご記入ください。
 - ④診療科目（病棟・階）を選択またはご記入ください。
 - ⑤カナ氏名（氏名・患者名）は必ずカタカナでご記入ください。
 - ⑥性別を選択してください。
 - ⑦生年月日および年齢をご記入ください。
※記入のない場合は判定に支障をきたす場合があります。
 - ⑧臨床診断名をご記入ください。
 - ⑨臨床経過・治療・その他臨床所見をご記入ください。
※記入のない場合は正確な判定結果をご報告出来ない場合があります。
※現病歴・既往歴・治療歴（術前療法）等を詳しくご記入ください。
※細胞診検査の目的をご記入ください。
※婦人科材料や乳腺材料の場合は特に月経周期、妊娠・授乳やホルモン剤使用の有無をご記入ください。
 - ⑩検査材料（採取部位）を選択および略図（病変の大きさ、性状）をご記入ください。
 - ⑪婦人科材料を採取される場合には特殊所見があればご記入ください。
 - ⑫胸部X線像の特異所見があればご記入ください。
 - ⑬前回の細胞診検査（病理組織検査）の標本番号および検査結果を出来るだけご記入ください。

塗抹標本および標本ケース

- ①塗抹標本のすりガラス部に患者名を記入し、乾燥固定した塗抹標本の場合のみ“乾燥（ドライ）”と追記してください。
- ②標本ケースには貴院名、患者名、性別、年齢、標本枚数を必ず記入してください。
- ③塗抹標本以外のスライドガラスは提出しないでください。
- ④標本ケースは、開放部の3面をセロファンテープあるいは輪ゴムでしっかり留めてください。

検査材料の提出方法

未染スライドまたは生材料を所定の専用容器に入れてご提出ください。

※ 細胞診検査の正確な判定を行うためには、採取後できるだけ早く塗抹および固定を行うことが非常に重要となります。

固定液入り専用容器によるご提出、または下記塗抹方法を参照により良好な標本をご提出ください。
固定不良、固定不十分、細胞数が少ない場合には、良性・悪性の判定ができない場合もあります。

【各種材料の塗抹方法】

①婦人科材料〔湿固定標本〕

- 乾燥しやすいので、塗抹後直ちに湿固定してください。

②喀痰〔湿固定標本〕

- 喀痰を採取する際は、起床後にうがいをして口腔内をきれいにしてから採取してください。
- 塗抹標本作製する場合は、小豆大の喀痰を2枚のスライドガラスにはさんで、前後左右に押しつぶすように、まんべんなく延ばしてください（すり合わせ法）。また、血痰部、白濁部、粘液部には癌細胞が多く含まれるので、とくにその部分を塗抹してください。
- 生材料のまま提出される場合は、専用容器（P1容器）に喀痰を入れ、フタをしてご提出ください。

③泌尿器材料（自然尿・カテーテル尿）

- 塗抹標本作製する場合は、先細遠心管を用いて、2000～3000rpm、2～5分間遠心後、沈渣をすり合わせ法にて塗抹してください。
- 生材料のまま提出される場合は、所定の容器（P4容器）に入れてご提出ください。また、尿は採尿容器（尿カップ等）にて採尿後、しばらく静置（静置することにより細胞は下方に溜まります）し、下1/3の部分より10mL以上をご提出ください。
- 尿細胞診検査では早朝尿（起床後最初の尿）は使用しないでください。（細胞変性が生じ、不適切な材料となります。）

④蓄痰材料

- 蓄痰専用容器（P2容器）に蓄痰し、容器のままご提出ください。なお、痰を採取する際は、起床後にうがいをして、口腔内をきれいにしてから採取（1日1回）し、痰を入れたらフタをして約50回強く振り、この操作を3日間連続して行ってください。
- 3日連痰の場合はP3容器を用いて、早朝痰を1日1回1容器に採取し、この操作を3日連続行ったのち容器のままご提出ください。

⑤擦過材料（気管支、消化管、胸・腹膜など）〔湿固定標本〕

- 擦過物は乾燥しやすいので綿棒などにより病巣などを擦過し、すみやかにスライドガラスに塗抹・固定してください。

⑥液状材料（胸水、腹水、洗浄液）〔湿固定標本、乾燥固定標本〕

- 塗抹標本作製する場合は、先細遠心管を用いて、2000～3000rpm、2～5分間遠心後、沈渣をすり合わせ法または引きガラス法によって塗抹してください。血性検体の場合は有核成分が多い白色層（バフィーコート部分）を塗抹してください。
- 生材料のまま提出される場合は、所定の容器（体腔液：J容器）に入れてご提出ください。

⑦針穿刺吸引材料（乳腺、甲状腺、肺、リンパ節、前立腺、睾丸、軟部腫瘍、肝など）〔湿固定標本、乾燥固定標本〕

- 穿刺針内に吸引された材料をスライドガラス中央に静かに落として塗抹します。検体量が微量な場合はもう1枚のスライドガラスを合わせてから引き離し、2枚作製してください（すり合わせ法）。検体量が多めにある場合は引きガラス法で塗抹してください。

⑧捺印標本（固形腫瘍、リンパ節など）〔湿固定標本、乾燥固定標本〕

- メスやカミソリで切った新鮮な組織の断面をスライドガラスに軽く押し当ててください。

⑨圧挫標本（中枢神経腫瘍、甲状腺腫瘍など）〔湿固定標本、乾燥固定標本〕

- 組織の小塊を2枚のスライドガラスにはさみ、軽く押しつぶして組織が進展したのちスライドガラスを引き離して、組織の厚い方を湿固定、薄い方を乾燥固定してください。

標本の固定方法

固定は細胞の変性、融解などの変化を停止させることが目的ですので、塗抹後すみやかに固定してください。

● 湿固定（パパニコロウ染色、PAS染色用など）

塗抹したスライドガラスを95%エタノールに30分以上浸して固定するか、サイトタックなどのスプレー式または滴下式のコーティング剤で固定してください。コーティング剤を使用する際は、塗抹全面に十分に噴霧または滴下してください。

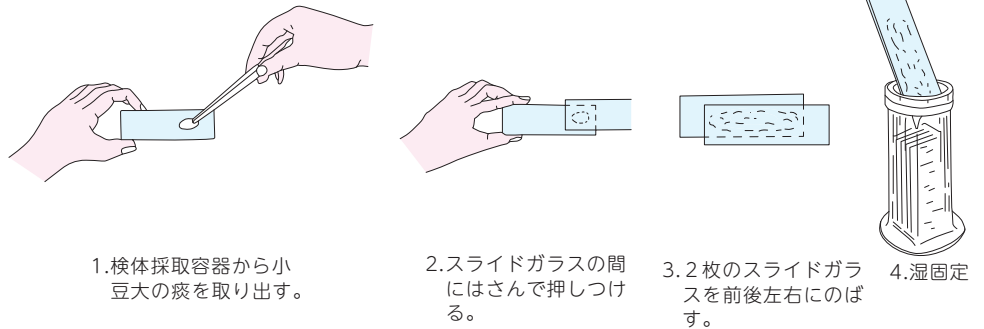
● 乾燥固定（ギムザ染色用）

塗抹後、すみやかに塗抹面を扇風機やドライヤー（冷風）で乾燥させてください。

※自然乾燥は乾燥ムラが生じるので適しません。

粘稠性検体

■ すり合わせ法



液状検体

■ 引きガラス法

■ すり合わせ法

